

# 乗雲

春彼岸、菩提の種を

蒔く日かな



六地藏さま (本堂前)

雪が消え漸く春がそこまでやって来ました。もうすぐお彼岸です。一年最初の墓参りが彼岸会です。私たちは遠い祖先より、春秋のお彼岸、お盆には亡き人を偲んで心のこもる仏事を営んで来ました。

寺報  
第128号  
R7/3/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL 0254-43-2419  
FAX 0254-43-4560  
編集人 広厳寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

迷いの「此岸」から悟りの「彼岸」に至るために設けられた一週間です。仏教を信ずる者として、彼岸はもとより、毎日の生活がお釈迦さまの教えで満ち、少しでも亡き人、ご先祖さまのご恩に報いる日常になるよう務めなければなりません。亡くなられた方へは、何をするところが一番の供養になるのでしょうか。どのようにすれば亡き人は喜んでくださるのでしょうか。読経の後には、「香華灯燭茶菓珍膳を供え、：霊位に回向し」と読み上げます。お香、お花、お灯明、お茶、お菓子、お霊膳等を差し上げて供養することです。これは供養のしきたりとして昔から行っていることです。どれも大切にしなければなりません。そして、供養を行う上でもっとも大事なことは、後に残った御家族ご親戚一同がみんな仲良く、良き人生を歩んでいくことです。

お通夜にお唱えしている梅花流詠讃歌の「無常御和讃」には、「昨日の人は今日はなく、会えば別るる世のならない」とあります。お釈迦さまは無常を説かれました。この世のすべて、常なるものは何一つない。生まれて、年を取り、病気になる、やがて死を迎えます。この「生・老・病・死」の四苦は誰も避けることはできません。必ずやって来る別れ、それがいつなのか、最期の時はどなたも知り得ません。だからこそ、遠いご先祖さまから頂いている尊い命を日々大切にしながら、報恩の誠を捧げなければなりません。

作詞家の永六輔さんは、「人間は二度死ぬ」と言われました。一度目は肉体が生命を終えた時、二度目は亡き人が人々の記憶から忘れ去られてしまった時です。大切な人がこの世からいなくなっても、お墓やお仏壇に手を合わせてお参りするとき、思い出してあげるとき、亡き人は自分の心の中に生き続けます。日頃より正しい生活を心がけ、迎える彼岸には沢山の菩提の種を蒔きましよう。

令和七年度(2025)の年回忌表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。年忌に当たられている各家には昨年十一月中旬に通知していますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考え、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。

## 令和七年 年回忌表

「回忌」	「没年」
一周忌	令和六年
三回忌	令和五年
七回忌	令和元年
	平成三十一年
十三回忌	平成二十五年
十七回忌	平成二十一年
二十三回忌	平成十五年
二十七回忌	平成十一年
三十三回忌	平成五年
五十回忌	昭和五十一年
百回忌	大正十五年

**大般若祈祷法要ご案内**

期日 6月10日(火)  
 時間 午前10時法要開始  
 内容 祈祷大般若、檀信徒供養法話

\*法要後の会食はありません。  
 粗飯お持ち帰りいたします。  
 \*詳細案内は次号に掲載します。

**新年役員会開催**

一月十九日(日)午前十一時より本堂に於いて新年役員会を開催いたしました。定刻、住職挨拶、総代長榎本善一氏挨拶の後、新役員紹介、辞令伝達、令和六年度の行持報告、令和七年度護持費納入状況、令和七年度の行持予定等の説明後解散となりました。

▼昨年、役員上野全氏(若松町)が退任されました。長い間の尽力ありがとうございました。ありがとうございました。

▼今回新役員として委嘱状が渡された方は、渡邊 聡氏(小舟戸)、赤塚俊夫氏(大川町)、飯沼富之氏(飯角)の三名です。

▼コロナ感染症以後、葬儀の形態が変わりました。家族葬やそれに準ずる小規模葬が一般的となり、葬儀社会館での葬儀も少人数で執行されています。当寺位牌堂ホールでの葬儀は控え室もあり、万一の場合には控え室に搬送しお寺から出棺も可能です。ご利用ください。



**◆寺院葬◆**  
 乗雲閣(位牌堂)ホールで  
 通夜・葬儀ができます。

5 /19 (月)	広 中 / 厳 7:00 条 (日本海東北・北陸・上信越)	信州中野 IC	岩小布松 院	善光寺	参 拝 食	松代 地下壕	象山 16:30	戸倉上山田温泉 信州の湯 清風園	
5 /20 (火)	旅 別 北 曹 安 (八角三重塔) / 9:00 所 向 洞 宗 樂 寺 (八角三重塔)	北 向 観 音	旧 銀 薄 薄 薄 軽 座 井 井 井 井 通 通 通 沢 散 沢 沢 策 策 策 IC	中 条 19:00	廣 嚴 寺				

**旅行案内** 主催 広嚴寺  
 長野善光寺参拝と  
 別所・軽井沢・戸倉上山田温泉の旅

期日 5月19日(月)~20日(火) 一泊二日 旅費 45000円  
 人数 30名 〆切 4月20日  
 \*昨年の乗雲12月号でご案内しています。ご確認ください。  
 \*詳細はお寺まで。

北信越管区内宗務所(長野第二、新潟第一)管区教化センターにもテレホン法話があります。

- ◆曹洞宗長野県第二宗務所 テレホン法話「なむなむやまびこ法話」0265-73-7676
- ◆曹洞宗新潟県第一宗務所 テレホン法話「禅の散歩道」0258-34-4455
- ◆曹洞宗北信越管区教化センター テレホン法話「心の電話」026-244-4141

新潟県曹洞宗第四宗務所  
 テレホン (WEB) 法話  
 おしょう 和尚さんの言の葉

テレホン法話 電話番号  
**0250-47-3132**

第四宗務所ホームページ内でも法話を聴くことができます  
 こちらのQRコードをスマートフォンからダウンロードしていただき、(4/12より)

**和尚さんの言の葉**  
 曹洞宗新潟県第四宗務所(所長 新潟市観音寺住職阿部正機師)では宗務所管内寺院によるテレホン法話を聞くことができます。和尚さんのお話をお聞きください。

写経の会 毎月第2日曜 午後1時~3時(1月2月は休会) 静かなお寺で功德を積みましょう。

「挨拶は人と人をつなぐ架け橋」  
如意寺副住職 寺尾英人

『おはよう!』

毎朝顔を合わせると必ず先に挨拶をしていくのは亡くなった祖父である先代の住職でした。私が高校生の頃、冬の時期に、寒さと眠さ、また年齢特有の恥ずかしさから、祖父の『おはよう』という挨拶に、ボソボソと返答した私に対し、『挨拶がちゃんとできない者はこの先どれだけ出世しても半人前のままだぞ』と言われたことを覚えております。

「挨拶」は禅語の「二挨一拶」からきております。師匠から弟子に声をかけ、返事を聞いて心の状態や修行の進み具合を探ります。また現代を生きる私たちにとっても挨拶は人間関係を円滑していく上での重要な手段とも言えます。ただし、社交辞令として使うのではなく、挨拶という対話の中で、慈しみの気持ちを持って接し、相手を観察することも大切です。挨拶をしてみて、元氣な返事があれば、「ああ、なんか良いことがあったかな」と一緒に楽しい気持ちになります。もしいつもの元氣がな

ければ、「何かあった?手伝えることはある?」と声をかけてみる。毎日ほんの少し積み重ねていくことでお互いの心と心が徐々にふれあい、人間関係も深まっていくと思います。人間関係が深まればさらに会話は増えていきます。話せる環境が整えば、楽しい時間の共有はもちろん、お互いに悩みを解き放つ機会も生まれます。

メールやライン、SNSが広まり便利になった一方、このように顔を合わせ、表情や声のトーンを確かめる機会が減ってしまったようにも感じ、少し残念にも思います。この数年コロナ禍などで顔を合わせる機会が激減してしまっただからこそ、顔を合わせる人には率先して挨拶をして、人と人のつながりを深めていきたいですね。先代の住職から言われた言葉は、当時はなんとなく聞き流していましたが、今思い返すと「人と人とのつながりを大切にしないさい。」という事を言っていたのだなと受け止めています。

\*この法話は令和六年十一月二十一日より三十日まで新潟県第四宗務所テレホン法話(和尚さんの言の葉)でのお話を掲載しました。

お寺からのお願い

▼位牌堂の各家位牌壇のロウソク、お線香について お寺で用意したミニロウソク、お線香をご使用ください。お線香は香炉から灰がこぼれないように真つ直ぐに立て、お参りが済みましたら点したロウソクは火災予防の為必ず火を消してください。

▼墓地の自然ゴミ(枯れ枝、枯れ草、枯れたお供えのお花等)は、お寺で業者者に依頼して処分しますが、それ以外のお花を包んであった紙、お墓掃除のたわし、雑巾、洗剤容器、ビニール類は捨てないでください。各自持ち帰って処理してください。

▼古い塔婆は、参道中程に「古塔婆入れ」がありますのでご利用ください。集落墓地の古塔婆もお持ちください。

▼お彼岸中は、位牌堂正面玄関を開放していただきますのでお参りください。

\*残雪の状態によりませんが、春彼岸前には境内墓地清掃に入ります。

\*墓地美化にご協力お願いいたします。

仏事の知識

六地藏さま

お寺の門の前にはお地藏さまが六体並んで祀られている。人間は死後の世界へ旅立つにあたり、生前の善行や悪行によって行く道が六つあると説く。それは、「地獄道(苦しみ絶えない地獄の世界)、餓鬼道(飢えに苦しむ餓鬼の世界)、畜生道(弱肉強食の畜生世界)、修羅道(争いが絶えない修羅の世界)、人間道(人間が住む世界)、天道(極楽と異なる世界)」とされている。あの世の行く先はその六つの世界のどちらかである。その行った先で迷い苦しんでいる亡き人に救いの手を差し伸べてくださるのが六体のお地藏さまです。この世からこの世界へ行っても、お釈迦さまに代わって我々を救ってくださる尊い菩薩さまです。

\*今までの仏事の知識は当寺ホームページでご覧いただけます。

仏事の知識



□涅槃聖苑



昨年盆過ぎより建立中でありました集合墓（涅槃聖苑）に屋根が掛かり、漸く全体が見えて来ました。



先祖代々の墓の継承にお悩みの方、墓じまいを考えている方は涅槃聖苑に合祀できます。資料がありますのでご相談ください。

■訃報 大川町 中原敏雄氏逝去

一月十八日寂、享年九十。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 東牧寺三十四世遷化

令和六年十二月二十日胎内市東牧、東牧寺三十四世前住職・牧心博英大和尚（中野博英師）遷化。世寿八十六歳。三月二十二日逮夜、二十三日の本葬が営まれる。師は長く教員を務められ、住職となられた後は寺檀和合して火災で焼失した本堂を再建された。秉炬師はご本寺村上市耕雲寺住職菊地光彦老師が務められる。遺弟喪主は三十五世住職・中野良英師。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 吉祥寺四十三世遷化

令和七年二月五日五泉市橋田、吉祥寺四十三世住職・龍雲信昭大和尚（生沼信昭師）遷化。世寿七十八歳。師は新潟県第四宗務所所長、下越佐渡有道会会長を務められた。二月十日逮夜、十一日本葬儀が執行された。遺弟喪主は副住職・生沼宏祥師。ご本寺は村松慈光寺様。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

□境内風景

十一月六日

年忌案内、護持費納付書発送

十一月十二日 住職

祖門会代表者会議 永平寺

十一月二十五日、二十六日

冬囲い作業 シルバー人材

十二月初旬

年始用品（お札、宝曆等）準備

十二月二日 寺報「乗雲」発送

十二月三日 住職 副住職

教区寺院年末会議及び懇親会

十二月五、六日 副住職

防火管理者講習受講 新潟市

十二月二十六日 菖蒲ライフ

本堂他伽藍 消防設備点検

一月二日、四日 住職 副住職

檀信徒各家年始回礼

一月二十四日 住職

祖門会代表者懇談会

二祖孤雲懷奘禅師

七百五十回大遠忌について

於大本山永平寺東京別院

三月二十六日 住職

大本山永平寺第八十世貫首

南澤道人猊下白寿祝賀会

於福井市内ホテル

□寂光塔（永代供養墓地）

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。広厳寺ホームページにも詳細が掲載されています。



寂光塔（永代供養合同墓所）

□動物供養塔（ペット墓地）

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外にも納骨供養できます。



動物供養塔（ペットのお墓）

